

鷹の羽に似た 縞模様

グラバー図譜の美しい魚の絵図を見ながら、山口敦子先生に解説してもらおう好評連載シリーズ。今回はタカノハダイです。

「タカノハダイは、日本では津軽海峡から九州南岸の浅い岩礁域などに広く分布するスズキ目タカノハダイ科の魚です。タカノハの呼び名は、体表の縞が鷹の羽の模様に似ていることに因みます。ダイパーや釣り人におなじみの魚ですね。全長は大きくても四十センチ程度、扁平した体に小さくて分厚い唇、斜めに走る帯状の黄褐色の縞模様が八〜九本あるのが特徴です。種小名を表す *zonatus* とは帯状の斑紋を意味するギリシャ語に由来します。いずれも縞は黄味が強い黄褐色、尾鰭には白い水玉模様があって、カラフルな熱帯魚のようですが、実はこの一見派手な斜めの縞模様、意外にもカモフラージュの役割を果たしているのです」。

え？ こんなに派手なのにカモフラージュになるのでしょうか。「斜めに走る縞模様“斜走帯”は、魚全体の輪郭をぼかし、魚を分断させて見せる効果があります。こうして周囲に溶け込み、気づかないのです」。

「ただけど…？」と、背が青く腹部は銀白色の魚の写真が送られてきました。見てみると、タカノハダイの幼魚でした。タカノハダイは成魚と幼魚の形態や体色が異なることで知られています。魚類では、仔・稚魚期には成魚と著しく異なる形態を持つことは珍しくないので、通常は幼魚期になれば、その模様が違うことはあっても形態を見れば何れの魚であるのかはすぐに見当がつく程度に成長しています。ところが、タカノハダイのように著しく異なる外見を持つ種では、間違っただけで別種として記録されてしまうこともあります。倉場富三郎氏は当時、グラバー図譜に描かれたタカノハダイ幼魚の種名を「未定」と記しました。色も形もタカノハダイとは似ても似つかない魚であったためでしょう。お味の方はどうなのでしょう。「釣り人にはどうにも臭くて食べられない。外道」と言われ、鱗が取りにくい上に夏は特に臭いが強いことから、ヨメナカセ「またその磯臭さから、シオンペンタレ」と呼ばれることもあり、散々な悪評です。でもちょっと待ってください。冬から春にかけて脂の入り、抜群に美味しい時期を迎えることはあまり知られていません。刺身はもちろん、洗いは更に美味しく、煮付けや唐揚げなど、どんな調理法でも問題ありません。是

海の森の木こり？

長崎では、キコリまたはキッコリといった方がわかりやすいかもしれませぬ。タカノハダイは群れを作らずなわばりをもつ魚です。海底の岩や海藻につく小さな無脊椎動物を食べ、単独で行動しています。頭頂部から背部にかけて張り上がった体に、小さくて分厚い唇、まるで筋肉隆々で逞しい木こりのようだとはいえませんか？このように木こりに模してこの呼び名がついたという説もあるのですが、新撰魚名考(栄川省造・一九八二)には、「頭部が小さく、吻も細く、キツネの顔に似ているためだろう。狐魚(キツコイオ)の転称だろう」と記されています。キツコイオがキッコ、あるいはキッコリへと変化したというのです。なるほど、確かにキツネの顔にも見えます。キツネダイ(秋田)、フトンジマ(静岡)、オカシカウオ(高知という地方名もある一方で、同属のミギマキという魚に対してヒタリマキなどと呼ばれることもあります)。

似ても似つかぬ 幼魚の頃

「いつも研究でお世話になっている石垣島の漁師さんから、以前『先生、見たこともない魚が獲れ

非お試しください。綺麗な白身で肉質は良く、かすかな磯の風味も含めてタカノハダイの味。ただし、活魚であること、内臓の処理は早めにしておくことが秘訣です。長崎県の対馬に伝わる「いりやき」は対馬地鶏の郷土料理ですが、海に近い地域では地鶏に代わってタカノハダイやメジナなど煮崩れしない魚が使われます。また、高知では獲れたてのカツオを船上で捌いて炙り、塩を振りかけた「塩だたき」が有名ですが、タカノハダイを使うこともあるといえます。磯の臭みをとって魚の味を十分に引き出す食べ方なのですね。流通網が発達した今でも、鮮度が重要なカギとなる魚です。群れを作らないためにまとまって漁獲されることがなく、流通しにくい魚ではありますが、逆に言えば、海に近い場所では味わえない特別な魚でもあるのです。鮮度が決め手となると、獲れたてを食べられる地の利を生かさない手はないですね。



上が成魚のタカノハダイ。右は幼魚(描いたのは中村三郎)。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>



解説 山口敦子

長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たちー有明海の豊かさと危機」(東海大学出版)など。

Glover Atlas

タカノハダイ

Goniistius zonatus

画家 小田紫星

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern
& Western Japan